

# スカウトの基礎知識

Yasumasa Shimazaki

Copyright (c) 2006

Scout Association of Japan Group #7 Shibuya Tokyo Kokugakuin Univ. Rovers All rights reserved

---



## 目次

発祥	1
ロバート・ベーデン＝パウエル（B-P）	
ブラウンシー島での実験キャンプ	
ボーイスカウトの組織	2
世界スカウト機構（WOSM）	
ボーイスカウト日本連盟 (Scout Association of Japn)	
都道府県連盟	
地区	
団、隊	
組織図（日本連盟、地区、団、隊）	
団組織図	
年齢による5つの部門	5
ちかいとおきて	8
敬礼	9
敬礼(The Scout Salute)	
スカウトサイン（The Scout Sign）	
スカウトの握手（The Scout Handshake）	
活動	11
ボーイスカウトにおける女子、女性	
モットーとスローガン	12
祝声	
チーフ	
ボーイスカウト出身の著名人	14
日本	



# 発祥

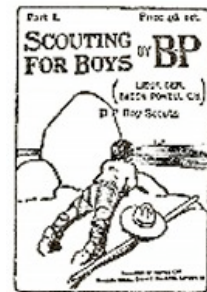
## ロバート・ベーデン＝パウエル (B-P)

ボーイスカウトはイギリスの退役軍人、ロバート・ベーデン＝パウエル卿  
(以下B-P) がイギリスの行く末を懸念し将来を託す事の出来る青少年の健全育成を目指して創設した青少年運動である。



## ブラウンシー島での実験キャンプ

1907年、B-Pは自らの体験を元に『スカウティング・フォア・ボーイズ』<sup>2</sup>という本を刊行し、イギリスのブラウンシー島で21人の少年達と実験キャンプを行った。この本が評判になり、本を読んだ少年達は自発的に組織（パトロール＝班）を形成して善行を始める。これがボーイスカウト運動の原点・発祥とされる。



(以上、フリー百科事典 ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/> より抜粋)

---

<sup>1</sup> ロバート・ベーデン＝パウエル卿

ロバート・ステインブソン・スミス・ベーデン＝パウエル卿 (Robert Stephenson Smyth Baden-Powell, 1857年2月22日～1941年1月8日)  
ボーイスカウトの創始者でイギリスの軍人、作家でもある。

<sup>2</sup> 『スカウティング・フォア・ボーイズ』 (Scouting for boys)

軍人であったベーデン＝パウエルは本国イギリスから長い間インドやアフリカなどへ遠征していたが、数々の手柄を立て50歳の時一線を退き故郷に戻った。

しかし彼が若くしてイギリスを離れた当時は大英帝国の絶頂期であったが、当時と違って不況の時代に入ろうとしているのを感じていた。事実、アルコール中毒や文化破壊行為が失業に見まわれた人たちに広がっていることに衝撃を受けた。

そこで、ベーデン＝パウエルは将来に希望を失った少年や大都市の物乞いの少年たちが非行に走るまえに、その少年たちを救い、社会と自らの将来に役に立てられる教育をしようと考え、ブラウンシー島の 実験キャンプ後にこの"Scouting for boys"の発刊をおこなった。



# ボーイスカウトの組織

## 世界スカウト機構（WOSM）



World Organization of the Scout Movement  
Organisation Mondiale du Mouvement Scout

ボーイスカウト、ガールスカウト活動を総括する世界最大の青少年団体。

2004年現在、加盟国は216カ国と地域。2,800万人以上の少年少女が加盟員として存在する。これ以外にもWOSMに未加盟でスカウト活動をしている国や地域が複数存在する。

『世界スカウト会議』（総会）、『世界スカウト委員会』（理事会）、『世界スカウト事務局』の3つの主要機関からなる。3年に1度、世界の各地で世界会議が行われ、年に一度以上、世界委員会が行われる。

本部である世界スカウト事務局は、スイスのジェネーブに置かれている。さらに世界を6つの地域にわけそれぞれに事務局を置いている。

## ボーイスカウト日本連盟 (Scout Association of Japn)

日本国内のボーイスカウト活動を総括する公益法人、地域組織として都道府県連盟がある。

### 都道府県連盟

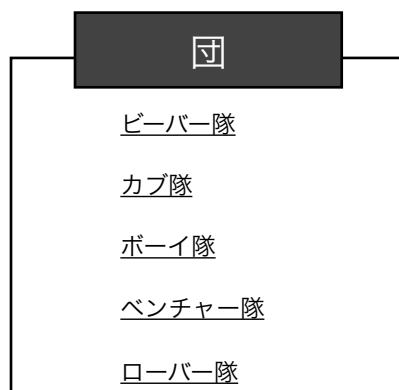
地域の実情や、スカウト活動の運営を円滑にするために各都道府県にそれぞれ1連盟ずつある。たとえば、東京連盟とか、三重連盟とか。

### 地区

都道府県連盟は、地域の実情により、連盟の運営を円滑にするために『地区』設置している。『地区』は数個～数十団で構成される。（たとえば、東京連盟ならば、渋谷地区、新宿地区、港地区等）

### 団、隊

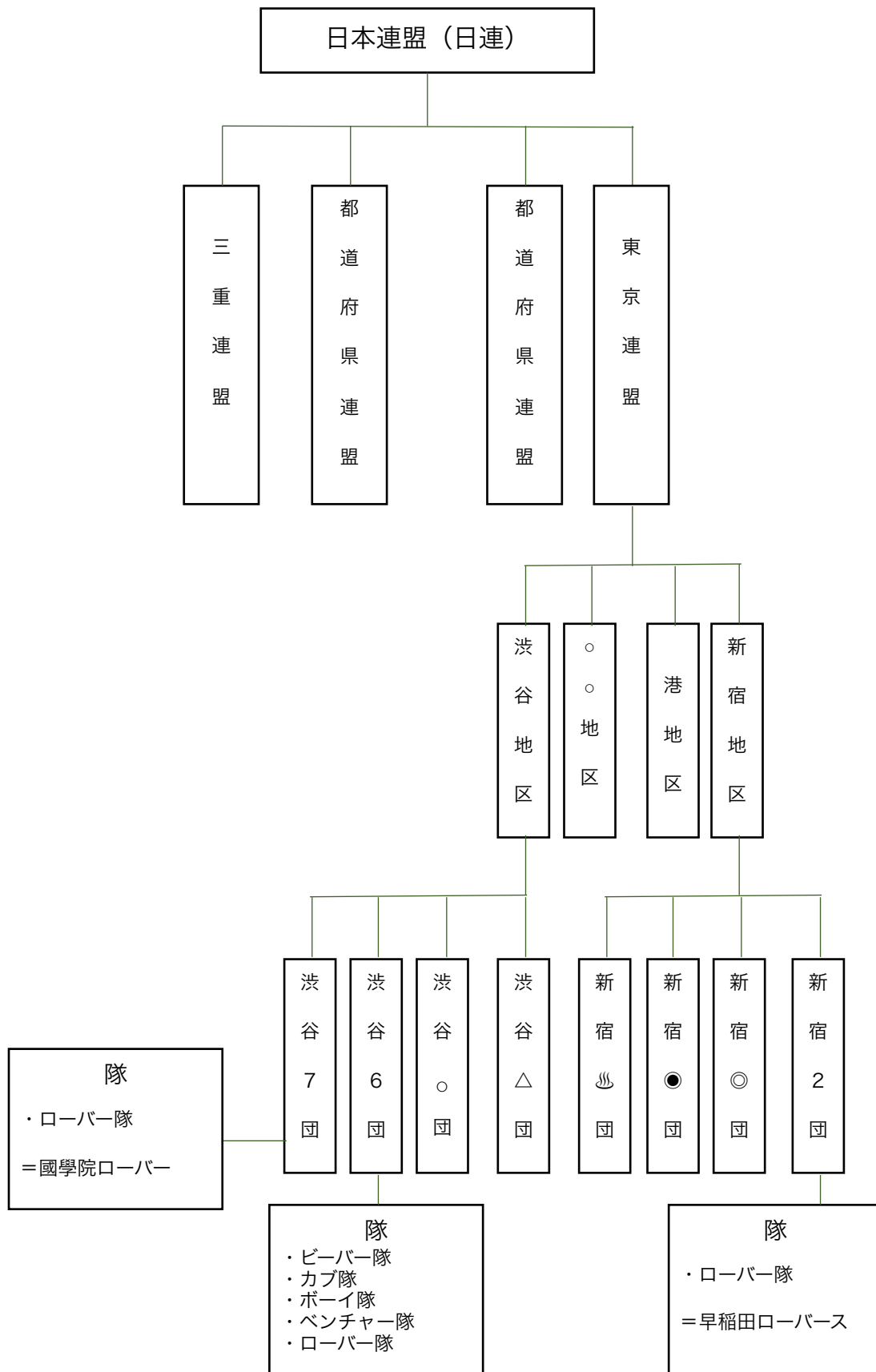
青少年に対しスカウト教育を実施する単位を『隊』といい、運営の単位を団とする。



※一つの『団』の標準的な構成例。いわゆる大学ローバーは、大学のいち団体であるという側面からローバー隊しかない場合が多い。

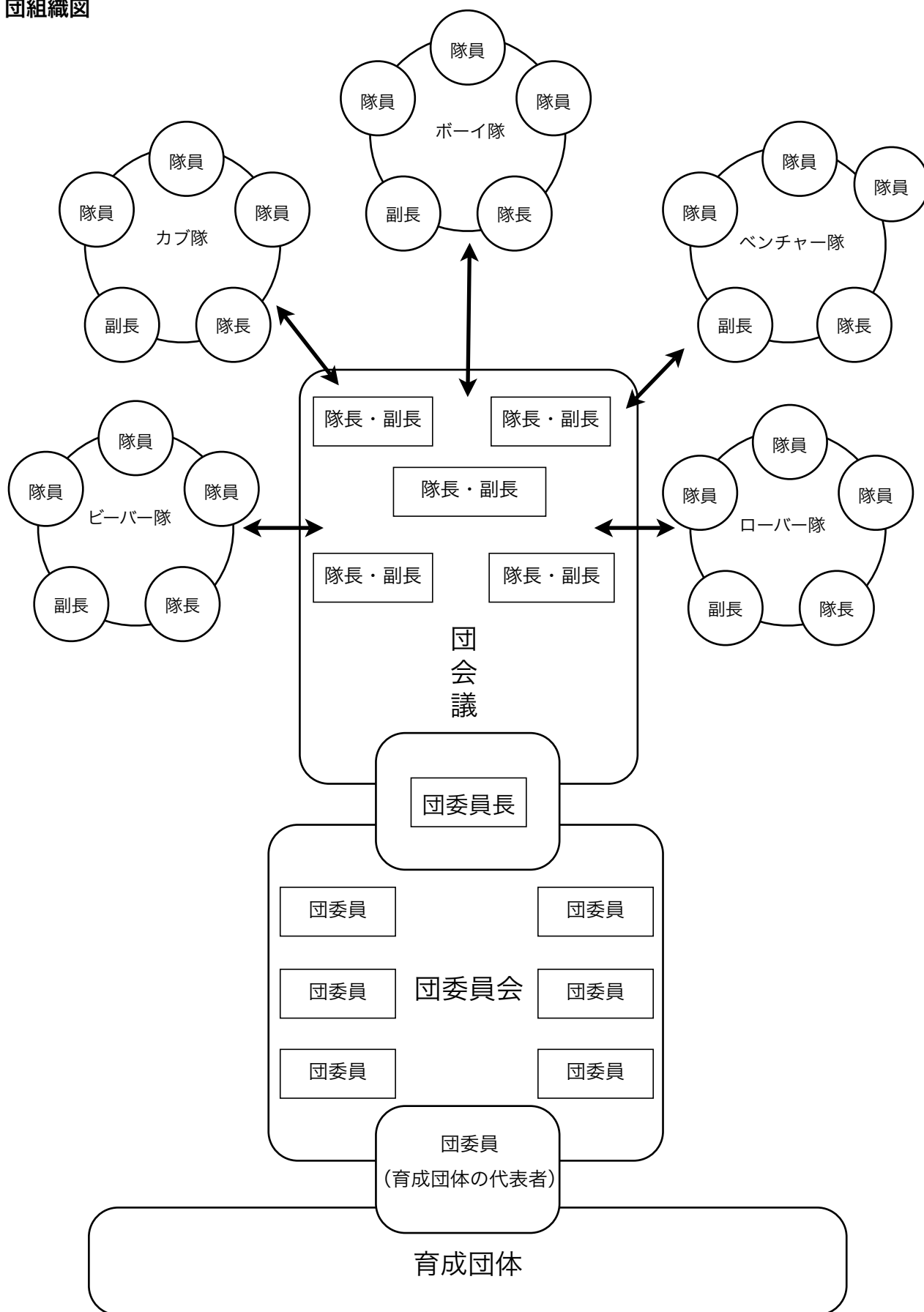


## 組織図（日本連盟、地区、団、隊）





## 団組織図



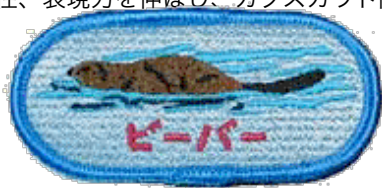


## 年齢による5つの部門

### ・ ビーバースカウト（幼稚園年長児9月～小学校2年生9月）

活動自体は、幼稚園児・保育園児から小学校2年生まで同じ活動をするが、その中でも小学校2年の4月から9月までをビッグビーバーとよび、カブスカウトへの上進する準備とともに、後輩スカウトの面倒を見る

教育指針は『隊の活動に参加することによって自然に親しみ、基本的生活技能、社会性、表現力を伸ばし、カブスカウト隊への上進を目指す』である。



ビーバー章



ビッグビーバー章

### ・ カブスカウト（小学校2年9月～小学校5年9月）

カブとは『オオカミやクマなど、獣の子ども』の事である。国によっては『ウルフ・カブ』（オオカミの子ども）と呼ばれる。進級記章として動物の名前が設定されている、下位からりす、うさぎ、しか、くま。またボーイへ上進する"くまスカウト"たちを"月の輪組"とよび、上進の準備を行う。『チャレンジ章』という特定の分野への章も設定されている。



教育指針は『家庭や近隣社会での生活指導及び組や隊での活動に参加する事によってよき社会人としての基本を修得し、ボーイスカウト隊への上進を目指す』である。



←チャレンジ章



左からりす、うさぎ、しか、くまの各進級記章



・ ボーイスカウト（小学校5年生9月～中学校3年9月）

班制度と進歩制度という2つの柱によってプログラムがつくられている。班制度では班長と班員という構成で団体行動を学び、進歩制度では個人（スカウト）としての技量を磨く。初級、2級、1級と進歩し、ボーイ年代の進歩制度における最高ランクとして設定されているのが菊章（きくしょう）である。獲得した者は『菊スカウト』とよばれる。その他、ターゲットバッジ、マスターバッジ、技能賞という特定分野への章も設定されている。

教育指針は『該当年齢の少年・少女を対象とする活動であり、班及び隊の活動に参加する事によって自分の責務を果たし野外活動を主とした体験学習を通してよき社会人たる資質の向上を図り、ベンチャースカウト隊への上進をめざす』である。



ボーイスカウトバッジ（見習い）



初級章



2級章



1級章



菊章

・ ベンチャースカウト（中学校3年生9月～18歳になる年度の9月、もしくは20歳まで続けられる場合もある）

ベンチャースカウトはボーイスカウトと異なりプロジェクトに対して自主的な企画・計画、実行、評価・反省、報告が求められる。この一連のサイクルが評価された場合、プロジェクトアワードが授与される。ボーイスカウトと異なり、定まった班に所属することがなく、プロジェクト毎に班（プロジェクトチーム）を形成する場合が多い。ボーイのような班制度はないが進歩制度が存在し、富士章（ふじしょう）がその最高ランクである。獲得者は富士スカウトと呼ばれる。

教育指針は『青年男女がスカウト運動の目的を達成するために、ちかいとおきての実践と、グループワークの手法を用いたプログラムを通して自ら考えて行動し、その結果に責任を負うことができるよう育てることを目指す』である。



富士章

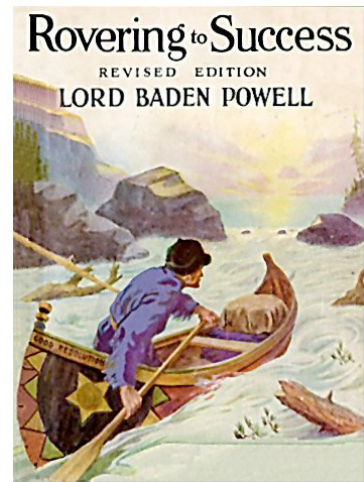


・ローバースカウト（１８歳以上、大学、専門学校１年生以上）

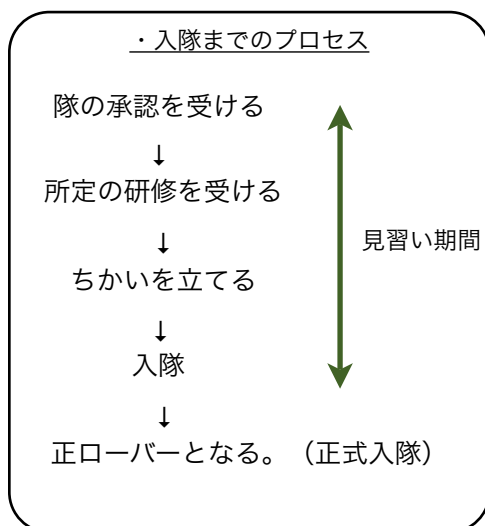
ローバー隊のローバーには『さすらう』『漂流する』という意义があり、自己の研鑽をイメージしている。B-Pの著書『ローバリング ツー サクセス』（Rovering to Success,1922）から命名された。

教育指針は『青年男女が各自の生活において、ちかいとおきてをより協力的に具現する機会を与えるとともに、自らの有為の生涯を築き、社会に奉仕する精神と体力を養う事を旨とする』である。

ローバースカウトは１８歳以上の青年を対象とし、入隊を希望する者は隊の承認を受け、見習いローバースカウト<sup>3</sup>となり、加盟登録<sup>4</sup>することができる。



見習いローバースカウトは隊の定めた基準に達した後、ボーイスカウト経験のない者はちかいをたて、ボーイスカウト経験のある者はちかいを再認してローバースカウトとなる。



<sup>3</sup> 見習いローバースカウト

ただし、隊によってはスクワイヤー、トレイニーと呼ぶ場合もある。

<sup>4</sup> 加盟登録

ボーイスカウト日本連盟に加盟すること。



## ちかいとおきて

ボーイスカウトには、その活動の支柱となる三つの誓い（ちかい）と八つの掟（おきて）がある。ちかいは良い社会人の生活の信条である。

おきては具体的な項目を示している。

### ちかい

・私は名誉にかけて次の3条の実行を誓います

1. 神（仏）と国とに誠を尽くし、おきてを守ります
1. いつも他の人々を助けます
1. 体を強くし、心を健やかに、徳を養います

### おきて

1. スカウトは誠実である
2. スカウトは友情にあつい
3. スカウトは礼儀正しい
4. スカウトは親切である
5. スカウトは快活である
6. スカウトは質素である
7. スカウトは勇敢である
8. スカウトは感謝の心を持つ



# 敬礼

## 敬礼(The Scout Salute)

ちかいの3項目にちなみ、3本指（人差し指・中指・薬指）だけを伸ばした拳手注目の敬礼が、礼式の一つとして定められている。

敬礼を行いながら同時に握手（同様に三指で握手）を行う事から、普通とは異なり、左手で握手を行う。この左手の握手には、より心臓に近い方の手であるからの説もある。

この三指の敬礼については、「無名のスカウト戦士（Unknown Soldier。注：無名スカウトの善行(Unknown Scout Story)とは別）」という逸話が残っている。第二次世界大戦末期、戦場で負傷し身動きできなくなった米軍兵士が日本兵と遭遇した。意識を失った彼を日本兵は殺さず、傷の手当てをして立ち去った。米軍兵士の手元に残されていたメモには、「私は君を刺そうとした日本兵だ。君が三指礼をしているのをみて、私も子供の頃、スカウトだったことを思い出した。どうして君を殺せるだろうか。傷には応急処置をしておいた。グッド・ラック。」と英語で記されていた。スカウトだった米軍兵士は、死に瀕して無意識に三指の敬礼をしていたのであった。このエピソードがアメリカ大統領に伝わり、当時の日本の少年団（現在のボーイスカウト日本連盟）に問い合わせがあったが名乗り出る者はいなかった。（この日本兵は戦死したのではないかとされている。）後に、日本中のスカウトの募金によって、神奈川県横浜市の「こどもの国」にこの無名のスカウト戦士の記念像が建立された。



敬礼の方法

姿勢を正して、右手で三指をつくり、右手の上の額に人差し指が軽く触れるようにする。手のひらを下に向け、肘をほぼ方と水平になるように横にはり、手の上げ下ろしは最短距離を通るようにする。

スカウトの敬礼は敬意を表すものである。国旗のセレモニーや、スカウト同士の挨拶として行う。

三本の指で行うため『三指の敬礼』という。三本の指はちかいの3条を示すものである。これは世界共通で、3つの近いをたてた仲間のしるしである。



## スカウトサイン (The Scout Sign)

右手で三本指をつくり、腕は横に肩と水平に上げ、肘を90度に曲げてまっすぐ上に伸ばす。

スカウトサインは世界各国のボーイスカウトに共通のサインである。三本の指は『ちかい』の3条を表し、それは『私はスカウトである』という、スカウト仲間の挨拶である。

スカウトサインは

1、ちかいをたてる

2、おきてを唱える

ときに行う。



## スカウトの握手 (The Scout Handshake)

左手の握手はスカウトサインとともに、スカウトの仲間が親しみを込めて行う挨拶である。スカウティングでは、世界の多くのスカウトと交流を深める気買うがあり、その際には左手で握手をする。

日本においては、左手の小指をあけて三指とし、小指を絡めてスカウトサインの形で握手する。



## 活動

- ・ キャンプやハイキングなどの戸外活動のほかに、地域への社会奉仕（ボランティア）活動も行なっている。地域の教会、神社、寺院などを拠点に活動が行われている場合もあり、また時にロータリークラブやライオンズクラブなどと共同して社会奉仕活動に参加することもある。このような社会奉仕活動は「目的」ではなく、青少年育成の「手段」として行われる。9月15日は、「スカウトの日」とされており、ボランティア活動をする団が多い。
- ・ 4年ごとの夏に日本ジャンボリー<sup>5</sup>と呼ばれる2万人規模のボーイ隊の大会が行われる。次の開催は2006年、場所は石川県珠洲市。この他、4年ごとにムート（野外活動を中心に討論なども含めた大会）が開催される。最近のものとして2005年8月19-24日にスカウトムート2005が山梨県にある山中野営場で開催された。
- ・ 4年ごとの夏に世界ジャンボリー<sup>6</sup>や、ベンチャースカウトにはベンチャースカウト大会(NV)が開催されるが、生まれ年によってはいずれも参加できない不運なスカウトもいる。
- ・ 障害児にもスカウト運動の門戸は開かれており、障害児専門の団もある。日本アグナリー（国際障害スカウトキャンプ大会）という、ボーイ隊のジャンボリーに相応する大会も開かれている。

### ボーイスカウトにおける女子、女性

日本のボーイスカウト運動における女性の参加は、カブ隊におけるデンマザーのように、限られた役割を果たしているだけであったが、世界スカウト会議における「スカウティングにおける成人」および「スカウト運動における少年少女と男女に関する方針」を受けて、日本でも女性の指導者と少女のスカウトが誕生した。その背景には、女性の社会進出や男尊女卑の撤廃、女性ならではのソフト面の対応への期待等があげられる。

ガールスカウトは、ボーイスカウトの目標に加えて、「自立した女性の育成」という目標ももっているため、受け入れの対象は少女のみであり、特に少年に対応したプログラムはもたない。一方、ボーイスカウトは、少女の受け入れをしており、裁縫・料理・介護・応急処置などの、いわゆる女性的なプログラムをもつ。しかし、全ては良き社会人となるためのプログラムであるため、少年だからやらない・少女だからやる、という区別はない。ただしキャンプなどの際には女子専用テントの増設をしたりしている。なお、ガールスカウト日本連盟の英語表記は、「Girl Scouts of Japan」であり、ボーイスカウトに「boy」が入らないのに対して、ガールスカウトには「girl」が入る。

ただし、まだ少女の受け入れをしていない団もあり、それはその団のカラーであり特色であるとして容認されている。

---

#### <sup>5</sup>日本ジャンボリー

日本ジャンボリー（にっぽんジャンボリー）とは、ボーイスカウト日本連盟主催のキャンプ大会であり、国内におけるボーイスカウトの最大の行事。4年に一度開催され、現在までに13回実施されている。略してNJ。大会回数を冠して14NJ（第14回日本ジャンボリー）等と表示する。

#### <sup>6</sup>世界ジャンボリー

世界ジャンボリー（せかいジャンボリー、World Jamboree）は、世界スカウト機構が主催するボーイスカウトのキャンプ大会であり、全世界のボーイスカウトの最大行事である。

4年に1度開催され、現在までに20回実施されている。略してWJ。大会回数を冠して20WJ（第20回世界ジャンボリー）等と表示する。近年の大会においては、「WJ」の略称よりも「WSJ」（“World Scout Jamboree”）の略称を日本連盟は公式に用いている。



# モットーとスローガン

スカウトのモットー<sup>7</sup>は、『そなえよつねに』（備えよ常に、Be Prepared）。

「いつなん時、いかなる場所で、いかなる事が起こった場合でも、善処が出来るように、常々準備を怠ることなかれ」という意味である。

スローガン<sup>8</sup>は、『日日の善行』（一日一善、Daily Good Turn.または Do a good turn daily.）

## 祝声

世界各国のスカウトは自国語の祝声（Cheer、他者を祝賀、賞賛する際や、再会を約して別れる折などに唱和する掛け声のこと。一般に用いられる万歳のようなもの）を持っている。

ボーイスカウト日本連盟の祝声は、弥栄（いやさか）である。

またこの祝声はギルウェル指導者訓練所の祝声としても用いられている。これは、1924年、ギルウェル指導者訓練所の所長であったJ・S・ウィルソンから、その時入所していた13国の指導者全員に、各国のスカウト祝声を披露するようにとの命令があった。このとき日本から参加していた佐野常羽が「弥栄」を披露し、「ますます栄える（More Glorious）」という意味であることを説明したところ、ウィルソン所長は、「発声は日本のものが一番よい。そのうえ哲学が入っているのが良い」と賞賛し、以後、ギルウェル訓練所の祝声を「弥栄」とすることに定められたものである。

---

<sup>7</sup> モットーとは

モットー (Motto) とは、社会集団や組織の日常の行動指針を表す言葉のこと。目標として掲げる言葉、信条、座右の銘。宣伝的な標語はスローガンと呼ばれ、モットーとは区別される。

<sup>8</sup> スローガンとは

スローガン(英: slogan)とは、企業や団体の理念や運動の目的を、簡潔に言い表した覚えやすい文句のこと。標語。  
語源はゲール語で「闘いの声」（war-cry）を意味する「sluagh-ghairm」（「sluagh」は軍隊、「ghairm」は叫びの意味）。



## チーフ

制服、制帽とともにスカウトの服装の象徴でもあるのがチーフ（ネッカチーフ）である。

チーフは二等辺三角形の布で出来ており、応急処置用の三角巾や埃よけのマスク、風呂敷など多目的に使用することもできる。チーフの色や模様はさまざまで、スカウトの階梯、所属する団や年度によっても異なる。また、ジャンボリーなどの特別なイベント時のみに着用するチーフや、海外派遣時に着用するチーフ、各連盟事務局のチーフなどもあり、それらはすべて視覚的にスカウトの所属を表すものである。

日本のスカウトはこれを三角形の長辺から反対側の頂点方向に巻き、両端がとがった棒状にして用いる。（海外のスカウトでは太くざっくりと巻くスタイルのものもあるが、日本では細く巻くスタイルが好まれている。チーフを極細に巻く事が出来る者は、同じ団や班の仲間からちょっと尊敬されるので、どれだけ細く巻けるか仲間同士で競うこともある。）これを首にかけ、両端をチーフリングと呼ばれる小さな輪状の器具に通す。チーフリングを胸の前（鎖骨の合わせ目辺り）まで引き上げ、チーフを留める。海外ではチーフリングを用いずチーフを直接結ぶスカウトも多くいるが、日本ではほとんどの場合チーフリングが使用され、チーフリングを使わずに直接結ぶという方法はたいていの場合、だらしのないものとみなされる。

チーフリングには一応正式なものが定められているが、装飾や記念品としての価値もあり、ジャンボリーやさまざまな行事に合わせて、特殊なデザインのもものが作られている。また、個人の趣味・余技として自作されることもあり、ジャンボリーなどで他のスカウトと友情の印として交換されることもある。正式なものは真鍮などの安価な金属製であるが、チーフリングの作成に用いられる材料は、木、皮革、牛などの動物の骨、細紐、ビニールやプラスチック、中には陶器製の物まであり、多種多様である。なお、チーフリングはその形状・材質によって外れやすいものもあるため、脱落防止に紐をつける場合もある。

入団式・上進式の時に、新たに該当する隊のネッカチーフが付与される。

「日日の善行」を忘れないために、チーフの先端に一つ結び目を作り、何か善行をしたらそれを解く、ということもよく行われる。B-Pの肖像写真にもチーフの先端を結んだものが残っている。



# ボーイスカウト出身の著名人

## 日本

- ・ 飯田覚士：プロボクサー、愛知県大府2団
- ・ 石井竜也：歌手、俳優、映画監督、芸術家、北茨城1団
- ・ 伊藤公介：政治家現衆議院議員、現ボーイスカウト町田地区育成会1号会員
- ・ 奥田瑛二：俳優
- ・ 恩田快人（元JUDY AND MARY）：ミュージシャン
- ・ 金田賢一：俳優、現渋谷5団団委員
- ・ 川島亮：東京ヤクルトスワローズ投手
- ・ 吉川晃司：歌手、俳優
- ・ 蔵間龍也：元関脇、タレント
- ・ 久留島武彦：児童文学作家。「日本のアンデルセン」と賞され、童謡『夕焼け小焼け』の作詞者
- ・ 清水アキラ：タレント
- ・ 杉山清貴：ミュージシャン
- ・ 辰巳琢朗：俳優
- ・ チャック・ウイルソン：タレント
- ・ 寺門ジモン（ダチョウ倶楽部）：芸人
- ・ 中村正人（DREAMS COME TRUE）：ミュージシャン
- ・ 長野博（V6）：歌手、タレント、俳優
- ・ 野口聡一：宇宙飛行士、茅ヶ崎2団ビーバー隊副長
- ・ 野々村真：タレント
- ・ 橋本大二郎：高知県知事、ボーイスカウト高知県連盟連盟長
- ・ 橋本龍太郎：元首相
- ・ 服部信明：茅ヶ崎市長、茅ヶ崎2団
- ・ 服部幸應：服部料理専門学校校長、服部栄養専門学校校長
- ・ 樋口康雄：作曲家
- ・ 氷室京介（元BOOWY）：ミュージシャン、高崎18団
- ・ 布施明：歌手
- ・ マイク真木：俳優、港第1団カブ隊。ビーバー隊の歌集にはマイク真木作詞作曲による「キャンプだホイ」が収録されている。息子は俳優の真木蔵人
- ・ 前田亘輝（TUBE）：ミュージシャン
- ・ 真喜志好一：建築家
- ・ 増岡浩：ラリードライバー
- ・ 村野武範：俳優
- ・ 与謝野馨：政治家、旧東京4団
- ・ 雷句誠：漫画家（「金色のガッシュ!!」）
- ・ 渡辺裕之：俳優
- ・ 須賀原洋行：漫画家（「よしえサン」）